

教校部「七祖講読（浄土論）」上野隆平

この講義では、七高僧の第二祖にあたる天親菩薩の『浄土論』を拝読します。初めに天親菩薩の著作の概要と『浄土論』の内容について簡単に紹介し、それが終わり次第、本文の講読に入っていきたいと思います。

本年は、願生偈とその解説にあたる部分--いわゆる「観察体相」と呼ばれる一段--を、その典拠となった『無量寿経』等の教説をもとに読んでいきたいと考えています。願生偈は、観察行の対象となる「仏国土」「仏」「菩薩」のありさまを全29種の功德莊嚴として簡潔にまとめたものです。『浄土論』の教説を通して、極楽浄土や阿弥陀仏、またかの土の菩薩がどのような存在であるかをじっくり考えてみるのができたらと思っています。

講義で使用する資料は適宜配布する予定ですので、特定の教科書を購入していただく必要はありません。